



# れきけん ニュースレター

vol.09

札幌市豊平館オープニングセレモニー



- 特集：豊平館がリニューアルオープン！
- ニセコ中央倉庫群の取り組み
- 角代表が日本民俗建築学会竹内芳太郎賞を受賞！
- おすすめ・れきけんBook

歴史的建築物分野の金メダル！  
日本民俗建築学会竹内芳太郎賞！



## ●特集：豊平館リニューアルオープン

6月20日(月)10:30より、豊平館のリニューアルオープニングセレモニーが開催された。行われ、秋元克広札幌市長の主催者挨拶に続き、来賓として鈴木健雄市議会議長挨拶、そして札幌市文化財審議会会長角がそれぞれ祝辞を述べた。その後、市長、来賓2名、指定管理者の株式会社NTTファシリティーズ北海道田淵昇代表取締役、拳式者代表松村正美氏の5名がテープカットに参加し、施設見学後、演奏鑑賞で式典が終了した。



豊平館と私との出会いは、1970(昭和45)年8月の実測調査参加からである。当時、豊平館に関する図面や関連史料があまりにも少ないため、創建、沿革に関する基本史料の収集と実測図作成を主目的に実施し、『重要文化財豊平館実測調査報告書』(1971.12)の取りまとめの一員として参加した。1979年には、翌年の豊平館創建百年を機に復原修理を行うために、豊平館修復基本調査団が組織され、この調査団にも参加することができた。この調査をもとに、1982(昭和57年)度から4年計画で半解体修理工事が実施されることになり、1986年に復原修理工事が完成したが、この際にも豊平館修復委員として参加できた。

その後、豊平館耐震補強等検討委員会(2009年度)、保存活用検討委員会(2010年度)、豊平館活用整備等検討委員会(2012年度)、豊平館指定管理者選定委員会(2013年度)の各委員長など、これまで継続的に関わることができた。



2011(平成23)年には長女の結婚式、披露宴会場として利用させてもらい、翌年2012年には私の退職記念パーティー会場として利用させてもらった。

今回の修理復原・活用整備工事は、外見ではわからないが、構造用合板と金物補強によるハイブリッドな耐震補強が随所に施され、背後にガラス張りエレベーター棟を増築してバリアフリーを実現し、さらに2階外壁に連絡通路用に穴を開けるといふ大きな決断が実行された。国の文化審議会でも激しい議論になったが、それまでの市民結婚式場から、昼間は展示公開施設、な活用が実現されるようになった。新生豊平館が、これからも格調高い空間体験の場として、また良質な観覧施設として、市民の誇る宝物としてあり続けることを願いたい。(角幸博)





## ●ニセコ中央倉庫群の取り組み

ニセコの最も繁栄した時代を象徴する「ニセコ中央倉庫群」は、大正から昭和にかけて、羊蹄山麓や近隣地域から集まる農作物を保管するために建設された。群れとして残る倉庫群は、ニセコの農業の歴史を今に伝える建築物群として、現在も残る数少ない産業遺産。特に、倉庫群の一角に残る「旧でんぷん工場」は、北海道で唯一、製粉機器の一部を当時のまま残す木造建築物として、高く評価されている。ニセコ町ではこの地域資産を、地域住民や観光客が集う交流の拠点として再活用することにした。

現存する6棟の倉庫群のうち、軟石張りの「1号倉庫」と木造の「旧でんぷん工場」の2棟については、地域住民や観光客が集う交流の拠点として、歴史的な外観や内部構造などをできるだけ保存するよう配慮して改修。「旧でんぷん工場」の屋内に残されていた篩（ふるい）などの製粉設備については、一度取り外し、改修の過程で組み上げる鉄骨フレームの上に再設置するなどして、ジャガイモから片栗粉を製造していた町の農産物加工の歴史を継承している。また「旧でんぷん工場」は、歴史的建造物においては珍しくしっかりと断熱工事を施すなど、極寒の冬も含め、通年使える施設として改修している。

倉庫群の再活用にあたっては、効果的な活用策や課題などを探り、広くPRするために、倉庫群を舞台にしたイベント「ニセコ倉庫邑（むら）」が、過去数回に渡り開催された。このイベントを主催した実行委員会や、地域住民からなるメンバーにより「NPO法人ニセコ倉庫邑」が立ち上がり、現代に残る地域遺産が失われる事のないよう、イベントや文化財保護の啓発に繋がる活動が行われた。また、ヘリテージマネージャーの調査チームが現地を調べ、棟札が見つかったり当時のカラープランが明確になるなどした。こうした活動実践を通じた中で多くの共感が生まれ、子どもから高齢者まで幅広い層の人々に広く親しまれるところとなり、多くの地域住民により、この歴史的な環境を活かした独自の活用が望まれている。

「ニセコ中央倉庫群」は平成28年7月にグランドオープンし、「旧でんぷん工場」と「1号倉庫」および敷地中央にある「広場」は、ニセコ町の指定管理者であるNPO法人ニセコ倉庫邑が運営管理を行っている。多くの個人・団体が多目的にご利用いただける交流空間として、貸館やイベントスペース、カフェなどとして活用している。ここには、ゆっくりと流れる時間であったり広々とした空間であったり、歴史を経た壁・床・梁などが語る時代の移ろいなど、日常とは少し離れた別の価値観がある。自分らしい暮らしを求める方や次の世代を担う子ども達、観光客の方々など、たくさんの方が繋がって、新しく生まれる出会いやアイデアを応援するような施設・空間でありたいと考えている。お近くへお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。（NPO法人ニセコ倉庫邑 向田薫）

■連絡先「ニセコ中央倉庫群」 虻田郡ニセコ町字中央通60-2 0136-55-5538



# ●角代表が日本民俗建築学会竹内芳太郎賞を受賞！

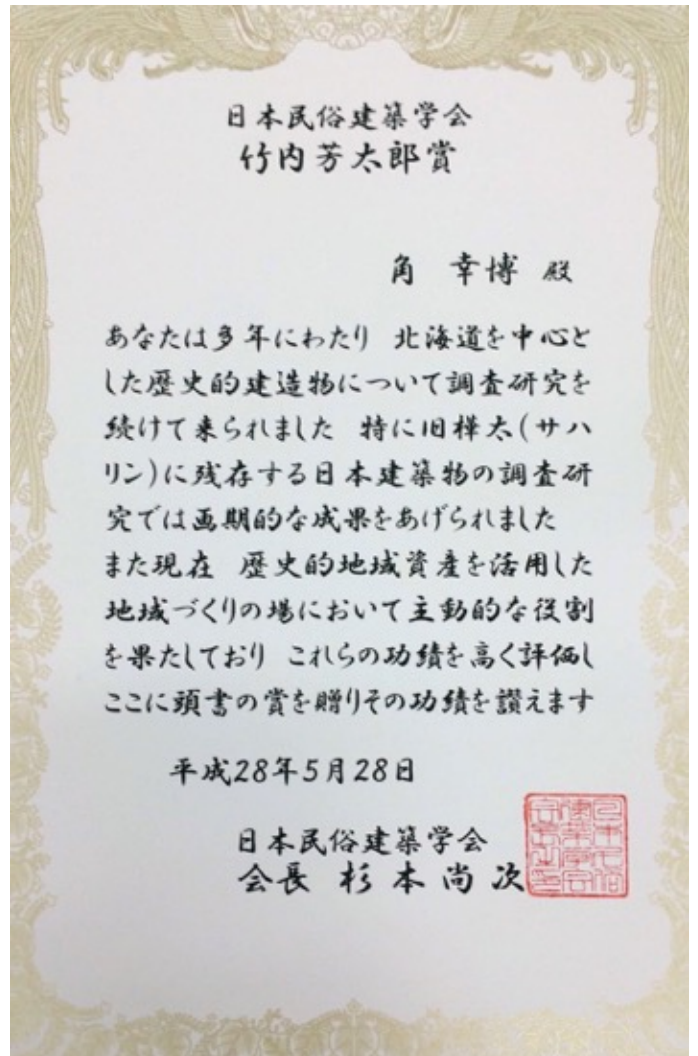
当法人の代表理事である角幸博が日本民俗建築学会竹内芳太郎賞を受賞！おめでとうございます！

審査報告書には以下のように受賞理由が記載されておりましたのでお知らせいたします。

角幸博氏は、北海道及び旧樺太の歴史的建造物について長年調査・研究を続けてこられ、その成果を高く評価致します。角氏の研究対象は札幌独立基督教会・クラーク記念会堂などの洋風建築から住宅、漁家、旧花田家番屋などの民俗建築に及び、これらの実態調査をもとに歴史的な体系化をなしとげられました。とくに旧樺太に残存する日本建築物の調査・研究では画期的な成果をあげられ、国際シンポジウムを開催された業績は極めて大きいものであります。

また重要文化財に指定されている札幌市の豊平館の保存・活用に向けての調査を主導されました。これは2012年に設立し代表理事をつとめられるNPO法人歴史的地域資産研究機構での活動につながるものであったと考えます。研究者と専門的な技能をもつ人々をネットワーク化した当法人が、今後地域づくりの場において大きな役割を果たすはずで、2016年に就任された博物館網走監獄の館長職についても最適の人材といえましょう。

角氏の旺盛な好奇心と柔軟な頭脳を活かした活動を、今後とも大いに期待いたします。

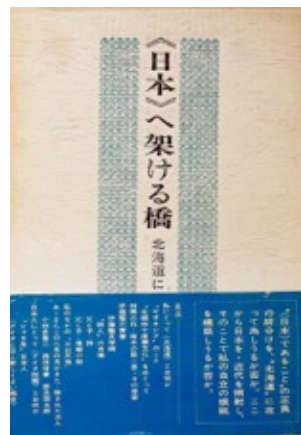


## おすすめ・れきけんBook

～れきけんアーカイブ田上義也蔵書より～



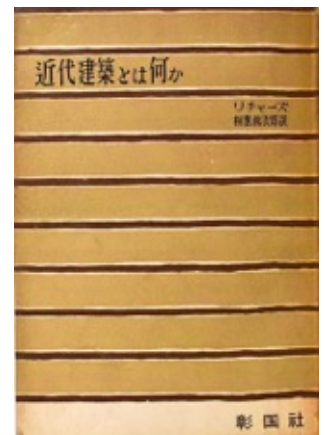
- 薔薇窓
- 著者 佐藤武夫
- 発行者 小林美一
- 発行所 相模書房



- 《日本》へ架ける橋
- 著：小笠原 克
- 発行者 深見 勝
- 発行所 辺境者
- 発行所 勁草書房



- 超現実主義詩論
- 著者 西脇順三郎
- 発行者 岡本正一



- 近代建築とは何か
  - 著者 リチャーズ
  - 訳者 桐敷眞次郎
  - 発行者 下出源七
  - 発行所 彰国社
- (橋本敏明)